

木育 かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
17

Contents

Page1	「園でつかうマイ箸づくり」スタートアップ
Page2	「園でつかうマイ箸づくり」スタートアップ 日常での「園でつかうマイ箸づくり」
Page3	宮崎工業高校インテリア科での木育の取組み
Page4	みやざき木づかい県民会議総会 木育活動を行っている園の紹介

みやざき木育プログラム研修会

「園でつかうマイ箸づくり」スタートアップ

講 師：松井 勅尚氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵氏（ぎふ木育推進員・NPOmusubi 代表・ぎふ木育協会副会長）

日 時：令和 3 年 10 月 22 日(金) 10:00 ～ 12:00 場 所：四季の森こども園（日南市）

参加者：園児 11 名、保育士 7 名、地域サポーター 13 名

日 時：10 月 23 日(土) 10:00 ～ 12:00 場 所：めぐみ保育園（宮崎市）

参加者：園児 12 名、保育士 5 名、地域サポーター 4 名

木育プログラムのモデル園として協力いただいている、めぐみ保育園（宮崎市）と、四季の森こども園（日南市）で、みやざき木育プログラム第 4 弾「箸づくり」（対象：年中児～）のスタートアップを行いました。このプログラムは、第 1 ～ 3 弾と違い、日常保育の中で実践する木育プログラムです。7 月に保育士研修で学んだことを、それぞれの園の保育士がどのように園児に伝えるかを考え実践しました。

➤ 四季の森こども園

導入は担任の徳尾先生の「食えること」についてのお話から始まりました。食えることは命に繋がっているからこそ、神様が「楽しいこと、にしてくれたこと。そして、食える時に使う「道具」についてのお話に続きます。世界で見ると「手、を使って食える国が一番多いことを伝え、さまざまな文化があることを知ってもらいました。そして私たちが住む日本では「お箸、を使うことを確認しました。」「お箸、についてこんなお話をしてくださいました。むかしむかし、火を扱うようになった時、熱くて握めないものを枝を使って握んでいたことが「お箸、の始まりで、日本では、お箸が「食べ物と自分の命をつなぐもの」と考えられていたこと。また、その素材も、国や地域・風習などによって木や竹や銀などいろんな材料が使われていたり、長さや太さなど形も様々であることを、実物のお箸を紹介しながら説明されました。日本人が使うお箸は、口に入る先端部分（喰い先と言います）が細く作られており、これは魚の骨などを取り除くなど細かい作業ができるようになっていることが説明され、お箸でできる「12 のコト、（つまむ、はさむ、おさえる、すくう、さく、のせる、はがす、ほぐす、くるむ、きる、はこぶ、まぜる）が紹介されました。園児もこれから作る「お箸」のお話を聞いて興味が深まったようです。お箸の材料が、宮崎県の県木のヤマザクラであること、ヤマザクラが園の裏の山でも咲くことを聞き、ヤマザクラのお箸が「自分だけのお箸、になることが楽しみになったように見えました。お話を聞いた後は、地域サポーターの皆さんにお手伝いしてもらいながら、手の大きさ（一咫半）を測り、箸の長さを決めて、ノコギリで切りました。講座の振り返りの時間で、松井先生からは、このお箸作りが木育の「日常」になること、そして、この日常での立ち振る舞いが大事であることが保育士の皆さんに伝えられました。

いよいよ『日常の木育』の始まりです！



みやざき木育プログラム・・・
宮崎県では、宮崎固有の文化や豊かな森林・木材資源をベースとした宮崎らしい木育プログラムの開発に取り組んでいます。



地域サポーターの皆さんと園児は、
すっかり「顔なじみ」。
始まる前からお話が弾んでいました（へ）

MOKUIKU

「園でつかうマイ箸づくり」スタートアップ

せかいに ひつだけの

じぶんのおはし



➤ めぐみ保育園

導入は担任の高橋先生の絵本の読み聞かせから始まりました。『いっぽんのきのえだ』（作・コンスタンス・アンダーソン 訳・千葉茂樹 出版社・ほるぷ出版）という絵本です。たったいっぽんの木が様々などうぶつたちによって、色んな使い方をされる様子が描かれているこの絵本。最後は「みんななら、いっぽんのきのえだを、どうつかいますか？」と締めくくられています。その問いに、子ども達は、「おえかき」「のこぎりで何かつくる」「バーベキュー」など様々な答えを出しました。

次に先生が出したのは給食の写真。写真の中に写るものの中で「木」で出来ているものはないか？と問いかけます。子ども達はすぐに前回作った「箸置き」と「箸」に気が付きました。「箸」は平仮名で書くと「はし」。日本にはいろんな「はし」があります。どんな「はし」があるか問いかけると、川に架かる「橋」を子ども達は思い浮かべました。高橋先生が、「橋」が川の向こう側とこちら側をつないでくれるから、みんなが行ったり来たりできるね、と伝えます。そして、みんなが使う「箸」が何と何とつないでくれるのかな？と問うと、「ごはん」「おかず」との答えが返ってきました。続けて高橋先生が「みんなが生きていくために大事なことは？」と問いかけます。「食べていくこと」と子ども達。その答えを受けて、高橋先生は最後に「お肉やお野菜、たくさん命を頂かないと生きていけない、その命を私たちに伝えていくものがお箸なのです」とお話を締めくくりました。

その後、お箸の材料であるヤマザクラについてのお話とノコギリの使い方のおさらいをしました。同じ形の箸の教材ですが木目や色味など一つ一つ違います。子どもたちは好みの一膳を選び、自分の手の大きさに合う長さに切りました。今回は幼稚園の先生を目指す学生の皆さんが「地域サポーター」として、お手伝いに来てくれました。

こちらの園でも、いよいよ『日常の木育』が始まります！

日常の木育「園でつかうマイ箸づくり」

指導日：令和3年11月11日(木) 10:00～12:00 場 所：めぐみ保育園（宮崎市）
11月12日(金) 10:00～12:00 場 所：四季の森こども園（日南市）

➤ めぐみ保育園



スタートアップしてから、地域サポーターの方にも来ていただき、みんなで紙やすりを使って磨いています。先生が来た日は5回目の箸磨きでした。つい磨きすぎて指をすってしまう子が出ていましたが、ケガをしない磨き方を松井先生から教えてもらいました。



背筋まっすぐです！



➤ 四季の森こども園



こちらでは、『日常の木育』の具現化の方法として「もくいくコーナー」が設けてあり、磨きたい子がいつでも磨けるようにしています。子どもたちが集中できるように静かな空間に設けられていました。姿勢が大切であるため机や椅子の調整など、保育士も改めて指導の仕方など確認しました。



松井先生より：今まで3つのプログラムを行ったが、今回の箸づくりから「日常」です。イベントがあっても日常は変わりません。木育を日常にするための工夫が必要です。木育が目指す「人、モノの命を大事にする」ということを、木工を通して子どもたちに伝えていくのが大切です。

吉田先生より：それぞれの園で大事にされている理念を感じます。保育士の皆さん同じ思いでされているのが良いと感じました。

高校生を対象とした木育授業の実施

宮崎工業高校インテリア科木育授業

日 時：令和 3 年 11 月 16 日(火) 8:30 ～ 16:20

場 所：・都城木材株式会社 ・宮崎県木材利用技術センター（都城市）
・ランバー宮崎（宮崎市）

木育活動の一環として、宮崎県立宮崎工業高校インテリア科 2 年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに木材加工企業などへの現地見学会を開催しました。



➤ 都城木材株式会社 宮村工場

説明：取締役 五十嵐 友梨子氏、営業課長 田平 浩史氏

こちらでは、スギ、ヒノキ、広葉樹を製材しています。スギとヒノキの特徴を教えてもらい、製材の仕方や乾燥など、材の形状や用途などでも違うことを学びました。材も、山と連携して家一軒分の材料を生産しています。"木の可能性を引き出すことが、人の暮らしを豊かにし、山を元気にする、"という精神のもと、あらゆる場面で高い品質を生み出す努力がされています。また、森への配慮もされており、「伐って、使って、すぐ植える」は口ぐせフレーズとなっています。



➤ 宮崎県木材利用技術センター

説明：企画管理課長 兵藤 和宏氏、平川 恵利子氏

こちらは県の施設で、林業・木材産業の活性化に寄与するため、スギを中心とした県産材の効率的利用を促進し、県内の木材関連産業の加工技術の向上と新製品の開発などを支援しています。施設の建物は木材技術が活かされた造りになっており、それらも含め、「総合実験棟」「構造実験棟」「加工実験棟」「材料実験棟」の 4 つを見学しました。柱や梁のたわみ、曲がり、割れなどの実験が行われており、実際にその様子を見せてもらいました。スギの特徴（成長が早いので細胞が大きい）を活かした CLT（直交集成板）が身近な建材として活用されるよう検証されています。



➤ ランバー宮崎協働組合

説明：通訳 金 恵栄氏、生産事業部総括次長 森実 裕美氏

こちらは宮崎県内の木材関連会社が出資して 1995 年に設立された会社で、ブレカット加工と木材の保存処理を主な業務として行っています。工場見学のあと、モックアップ（試作品の模型）の 2 種類の工法（在来工法、金物工法）について学び、図面の見方や柱の印のルールに気を付けて実際に組立て体験を行いました。

● 生徒の感想 ●

「丸太から家の材料になるまで、たくさんの手間がかかっているのを知り、自分も木材に関わる仕事をしたいと思いました。」
「今回は、企業視察でたくさんのことを学びました。木材がどんな過程を経て自分たちの元へと届いているのか、それを知ったら次の実習から木 1 つ 1 つに感謝しかないと思いました。」
「普段、実習で使う木材に対して、思うことはありませんでした。しかし、今回の企業視察を経て、1 つ 1 つの木材に色々な人の気持ちがあると思いながら、実習に取り組もうと思いました。」
「木材に詳しいと思っていたが、まだまだ知らないことだらけだった。もっと木材についてしっかり学んでいきます。」



「みやざき木づかい県民会議」総会

日 時：令和3年10月26日（火）14:00～16:00

場 所：ホテルメリージュ3階 鳳凰の間



今年度の表彰団体

「県産材利用部門」

- ①宮崎キネマ館（宮崎市）
- ②尾鈴山蒸留所新貯蔵庫（木城町）
- ③宮崎県木材会館（宮崎市）
- ④みやざき林業大学校研修生宿舎（美郷町）
- ⑤美郷町立西郷図書館（美郷町）

「県産材普及・啓発部門」

- ①有限会社丸満産業（日南市）
- ②社会福祉法人森と風の郷 四季の森こども園（日南市）
- ③皇子原公園神武の館
- 木育遊具施設「おうじばるの木」（高原町）

宮崎の豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県産材の地産地消に取り組むことが重要です。

この取組を官民一体となって進めるため設立された「みやざき木づかい県民会議」の総会が10月26日にホテルメリージュで開催されました。

総会では、毎年、県産材の利用拡大や普及PR等について顕著な功績があった団体に対し、感謝状が贈られますが、今年度は、「県産材普及・啓発部門」で木育プログラムのモデル園として活動している、社会福祉法人森と風の郷四季の森こども園（日南市）の取組が評価され、四季の森こども園の谷口先生が事例発表を行いました。また同じ普及・啓発部門で高原町の木育遊具施設「おうじばるの木」と日向市の有限会社丸満産業のコサージュが選ばれました。



日南市「四季の森こども園」による事例発表の一部「日常保育の木育活動」



高原町「おうじばるの木」



日向市有限会社丸満産業のコサージュ

木育活動に取り組んでいる園の活動をご紹介します

宮崎市

めぐみ保育園「しぜんとふれあおう」（野外散策）

日 時：令和3年10月29日（金）9:00～15:30

場 所：早水公園、宮崎県木材利用技術センター（都城市）

参加者：年長児 12名

園で取り組んでいる「木育・森育」活動において、今回は年長児が都城市の早水公園と宮崎県木材利用技術センターへ行きました。

早水公園に到着し、保育士が園児に周りに何があるか問いかけると園児が木があると答えました。保育士がいろんな木があり、それらはいろんな実をつけ、いろんな葉のカタチがあることを伝え、木の名前を覚えて帰って欲しいと伝え、公園の散策を始めました。そして、今回の目的はもう一つ、「どんぐりひろい」です。ビニール袋を持って、どんぐりが落ちていたら、みんなで拾い集めました。

場所により、どんぐりもいろんな種類のどんぐりが！大きさやカタチの違いを確認しながら拾いました。



拾ったどんぐりの違いを確認！この日拾ったどんぐりは、マテバシイ、クヌギ、コナラ、ツブラジイのどんぐりでした。



ロボットのたのお家ができました★

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL：0985（27）7682 / FAX：0985（25）2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ